

現場におけるエビデンスに基づく教育実践の推進

岐阜県養老町立養北小学校・

Institute of Education, University College London

森 俊郎

第2回EBPPセミナー, 東京 2018/06 /30

**The EPPI-Centre is part of the Social Science Research Unit at the
Institute of Education, University College London**



EPPI-Centre

Social Science Research Unit
Institute of Education
University College London
18 Woburn Square
London WC1H 0NR

Tel +44 (0)20 7612 6397
Fax +44 (0)20 7612 6400
Email eppi@ioe.ac.uk
Web eppi.ioe.ac.uk/

エビデンスを「つかう」とは
どういうことか？

Step 1 問題の定式化

S :Student	「どんな生徒（児童）に」
I :Intervention	「何をすると」
C :Comparison	「何に対して」
O :Outcome	「どうなるか」

疑問？



Teaching & Learning Toolkit

An accessible summary of educational research on teaching 5-16 year olds.

Filter Toolkit Toolkit Strand ^ Cost v Evidence Strength v Months Impact

Selective Mutism | **Reading comprehension strategies** £ £ £ £ £ 🔒 🔒 🔒 🔒 🔒 +5

Moderate impact for very low cost, based on extensive evidence.

£ ●————● Cost
🔒 ●————● Evidence
+1 ●————● Months Impact

Reset ↻

What does The EEF do? Please take the 2 minute tour of our website tools & features.





Contents

- 01. What is it?
- 02. How effective is it?
- 03. How secure is the evidence?
- 04. What are the costs?
- 05. What should I consider?

◀ Toolkit A-Z

Reading comprehension strategies

Reading comprehension approaches to improving reading focus on learners' understanding of the text. They teach a range of techniques that enable pupils to comprehend the meaning of what is written, such as inferring the meaning from context, summarising or identifying key points, using graphic or semantic organisers, developing questioning strategies, and monitoring their own comprehension and identifying difficulties themselves (see also Meta-cognition and self-regulation).

How effective is it?

On average, reading comprehension approaches improve learning by an additional five months' progress over the course of a school year. These approaches appear to be particularly

Resources



Printable Summary

26th April, 2016 - Toolkit/EEF_reading-comprehension-strategies.pdf



Technical Appendix

18th February, 2016 - Toolkit/Technical_App



Related Projects

We have funded 1

Reading
comprehension



educationendowmentfoundation.org.uk/evidence/teaching-learning-toolkit/reading-comprehension-strategies *minute tour of our website tools & features.*

自閉症スペクトラムの方に対する効果的な雇用促進について

著者：John D. Westbrook、Chad Nye、Carlton J. Fong

発行：2012年3月9日

分類：教育

巻：第8巻

号：第5号

要約

自閉症スペクトラム（以下 ASD）の発生率は、過去 20 年間で増え続けている。現在、アメリカでは、110 人に 1 人の割合の子どもたちが ASD と診断されている（CDC、2009）。ASD とは、神経学的障害を示し、コミュニケーション場面において、ある程度の困難さを抱えていることを意味する。ASD の幅は広く、最も高機能な場合は比較的自立した生活を送り、学業も終了することができるが、その一方で社会的困難を示す人も多い。ASD で機能が最も低い場合の人々では、身体的な制限があり、言語に発話能力が欠如している場合もあり、他者と社会的に関係性をもつことが不可能なことがある。

ASD の人々にとって、人生計画を長い期間で計画し、生活の向上を考える上で、雇用の選択は重要である。雇用の採用や継続的な勤務を目指す ASD の人々に対して様々な試みがある。一方で、有効的で社会的な介入がある場合、ASD の人々に採用や雇用が見込まれるということである（Schaller & Yang、2005）。実際に、ASD の 37%は、高等学校修了後に 12 か月以上の雇用機会があったことが報告されている（Newman、Wagner、Cameto、& Knokey、2009）。しかしながら、仕事に対して何かできないことがあるというよりも、言動や社会的なやりとりの問題によって、ASD の人々は雇用を失いやすい傾向にあるということも報告されている（Dew & Alan、2007; Hurlbutt & Chalmers、2004; Unger、1999）。

これまでの研究は自閉的な傾向と雇用という面において取り組まれてきたが、そのようなものは包括的なエビデンスとして報告されてこなかった。したがって、ASD の人々が大人になって雇用を得ることにおける効果的

この2つの研究におけるリスクバイアスの分析について、研究課題、分析、コスト、正確な実行、そして見えていないことを含むバイアス分析の5つの点のうち3つについて高いバイアスのおそれが確認された。両研究の方法の質は低かった。したがって、本レビューの結論は、ASDのある人々に対して、雇用の結果をうみ出すことと関連されるような決定的な結果が示されたと解釈されるべきではないということである。

著者の結論

ASDのある人々における雇用と関連した研究がレビューされ、次のことがASDの人々における成功的な雇用の要素であるかもしれないと示唆される：(1)最も適した仕事と場所の選択、(2)仕事に対する効果的な支援、(3)雇い主と消費者に対しての長期に渡る支援、(4)経済的な支援、そして(5)ASDのある人々の雇用に対するよい影響の提示である。

質的研究は今後の研究において多くの問題を示しているが、それらが具体的に何に働くのか決定的には明らか

訳 大村 正樹（滋賀県公立小学校） 森 俊郎（岐阜県公立中学校）
ではない。加えて、著者が記していることは、本レビューに含まれるような地域を基盤とした雇用の介入はついでであり、工場のような雇用における介入では、さらに様々な不確実性がある。

しかしながら、Howlin、Alcock、Burkin (2005) や他の者は（例 Cimera と Cowan、2009）、本レビューに含まれるような雇用の介入は研究により少しずつ受け入れられやすくなってきている。地域を基盤とした総合的な雇用の介入は、コストがかかる一方で、社会を大きくしたり、給料を改善したり、地域を巻き込んだりすることで、ASDの雇用を確かに改善することを示唆している。

イギリスの場面緘黙情報研究協会 SMIRA (スマイラ) の資料です。

Knet 資料 No. 10

この資料を日本で使われる時は、日本の現状を考えた上で参考にされることをお勧めいたします。

原文 : handout 2 " Addressing the issues of speech anxiety with selectively mute children "
The Selective Mutism Information and Research Association (SMIRA) のHP
<http://groups.yahoo.com/group/smiratalk/>の Files

資料: 配布してください!

場面緘黙を説明するために、この情報を先生や家族、友達、専門家にお伝え下さい。

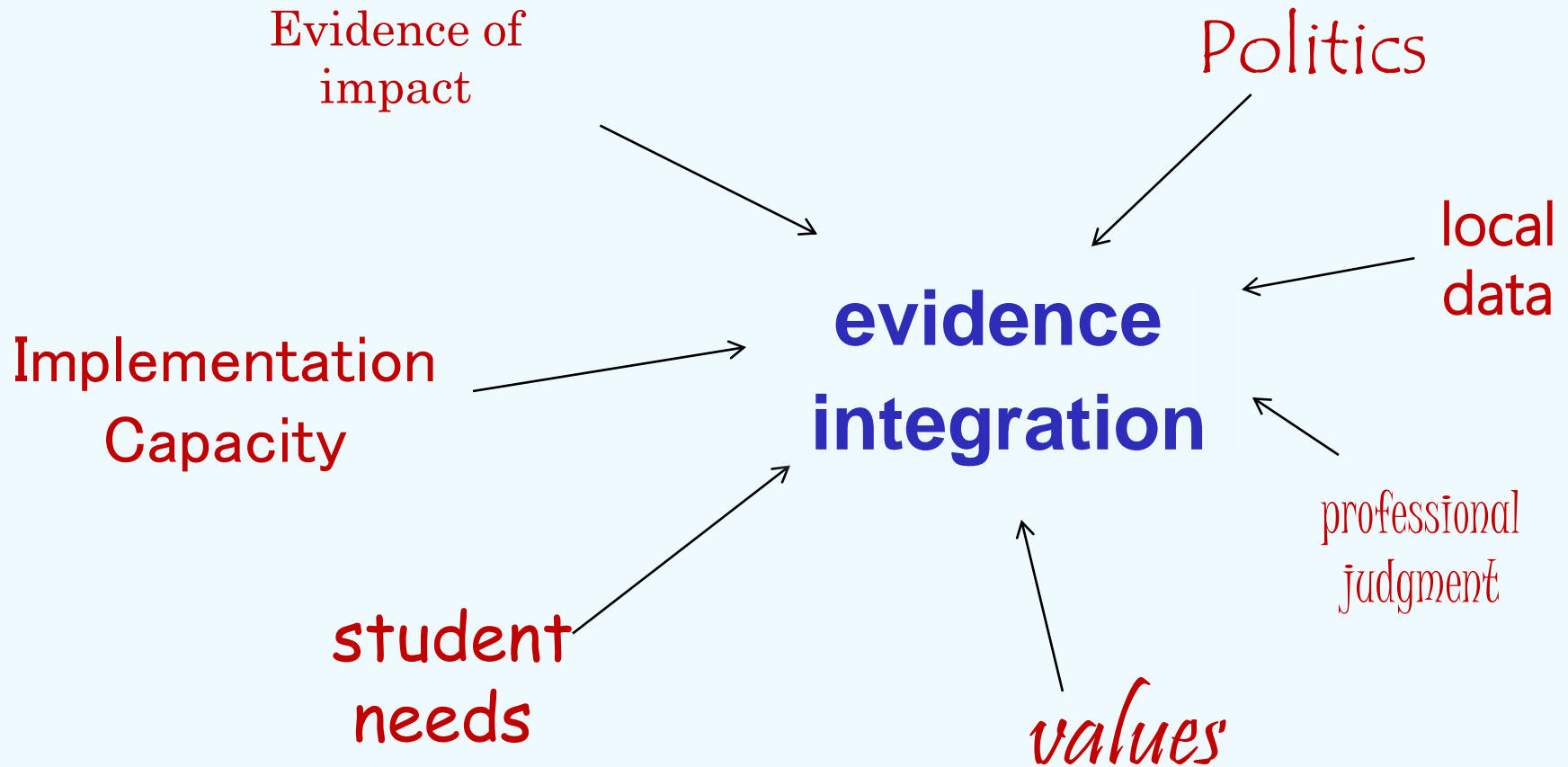
子どもと共に「話すことへの不安」に取りくむ

A♥

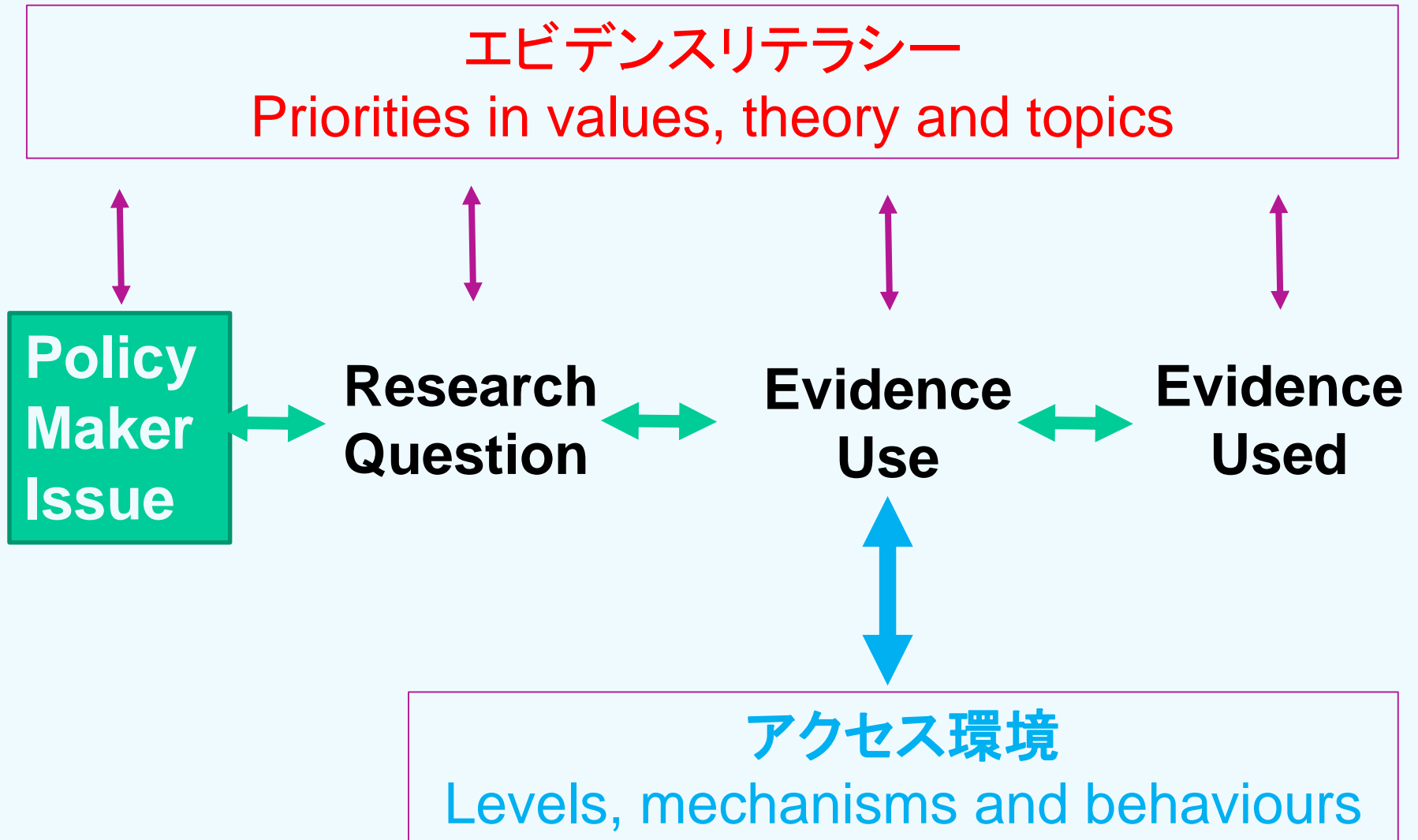
「話すことができれば誰しも、声が出ないときにどうなるか、私にはわかりませんが、子どもに伝えてあげましょう。子どもは話したいと思っていて、そして、ずっと話そうとしてきたけれど、言葉がまるでのどにつっかかったようにどうしても話せなくて、とても不安な思いをしているのです。あなたがどのような言葉で子どもに伝えればよいか、どんなふうに話せばよいか、それは子どもの年齢によります。しかし、とても低い年齢の子どもであっても、困難から目をそらしたり、ごまかしたり、間違っただけのままにするよりも、問題をきちんと受けとめる方が、ずっと子どものためになるのです。

子どもたちは普通、大人の何気ない言葉を聞いて「話すことは簡単」なのだと思っているものです。幼稚園や学校や家の周りでも、このような困難を抱えている人を見たことがないでしょうから、よけいにそう思

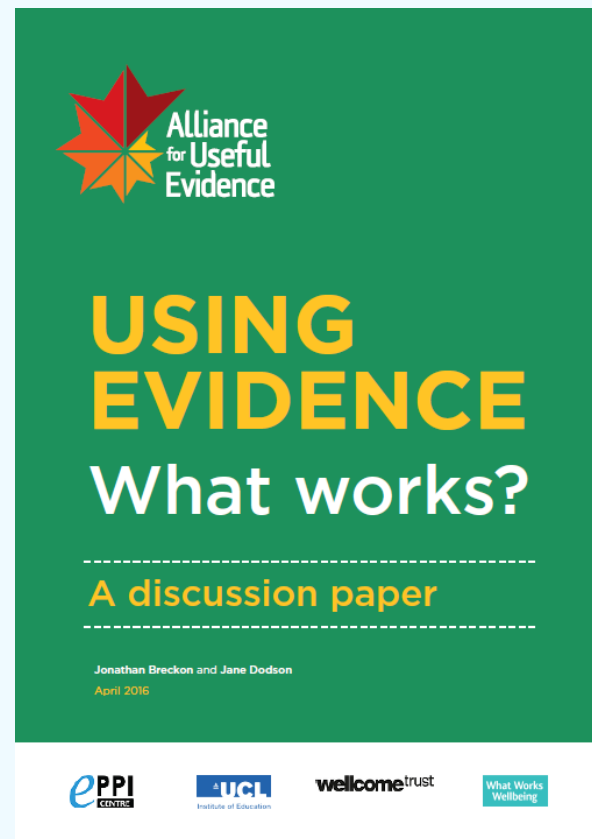
Evidence and decision making



Components of policy maker demand (pull) led use of relevant evidence



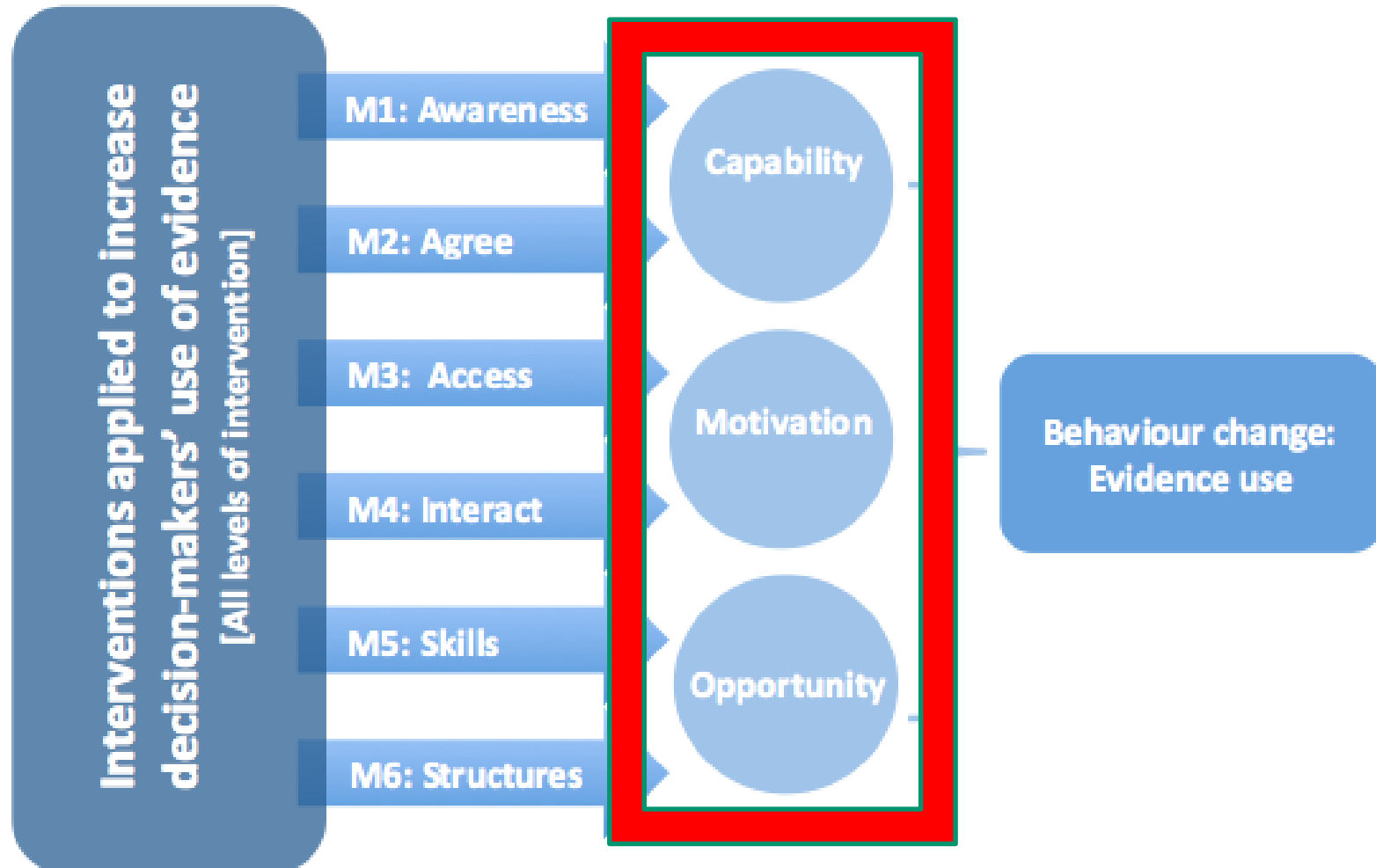
Mechanisms of evidence use research



<http://eppi.ioe.ac.uk/cms/Default.aspx?tabid=3504>

<http://www.alliance4usefulevidence.org/publication/using-evidence-what-works-april-2016/>

エビデンスを「つかう」メカニズム



エビデンスを活用する能力 (**Capability**)

(%)

区 分		計	大学院	大 学 (学部)	短期大学	その他
幼稚園	平成16年度	100.0	0.8	16.2	80.1	2.7
	19年度	100.0	0.8	19.0	77.5	2.7
	22年度	100.0	1.2	22.7	74.2	2.0
	25年度	100.0	1.0	25.5	71.8	1.8
	28年度	100.0	1.1	28.4	67.8	2.7
小学校	平成16年度	100.0	2.6	83.1	13.7	0.5
	19年度	100.0	3.0	84.1	12.5	0.4
	22年度	100.0	3.3	85.1	10.9	0.7
	25年度	100.0	4.2	86.2	9.2	0.5
	28年度	100.0	4.8	86.9	7.8	0.5
中学校	平成16年度	100.0	4.5	88.8	6.4	0.3
	19年度	100.0	5.8	88.0	6.0	0.3
	22年度	100.0	6.9	87.4	5.4	0.3
	25年度	100.0	8.2	86.5	5.0	0.3
	28年度	100.0	8.8	86.7	4.4	0.2
高等学校	平成16年度	100.0	11.1	86.7	1.5	0.8
	19年度	100.0	12.3	85.5	1.5	0.7
	22年度	100.0	14.0	84.1	1.3	0.5
	25年度	100.0	14.7	83.5	1.1	0.7
	28年度	100.0	16.2	82.0	1.0	0.7

(注) 小数点以下第2位を四捨五入したため、計と内訳が一致しない場合がある。

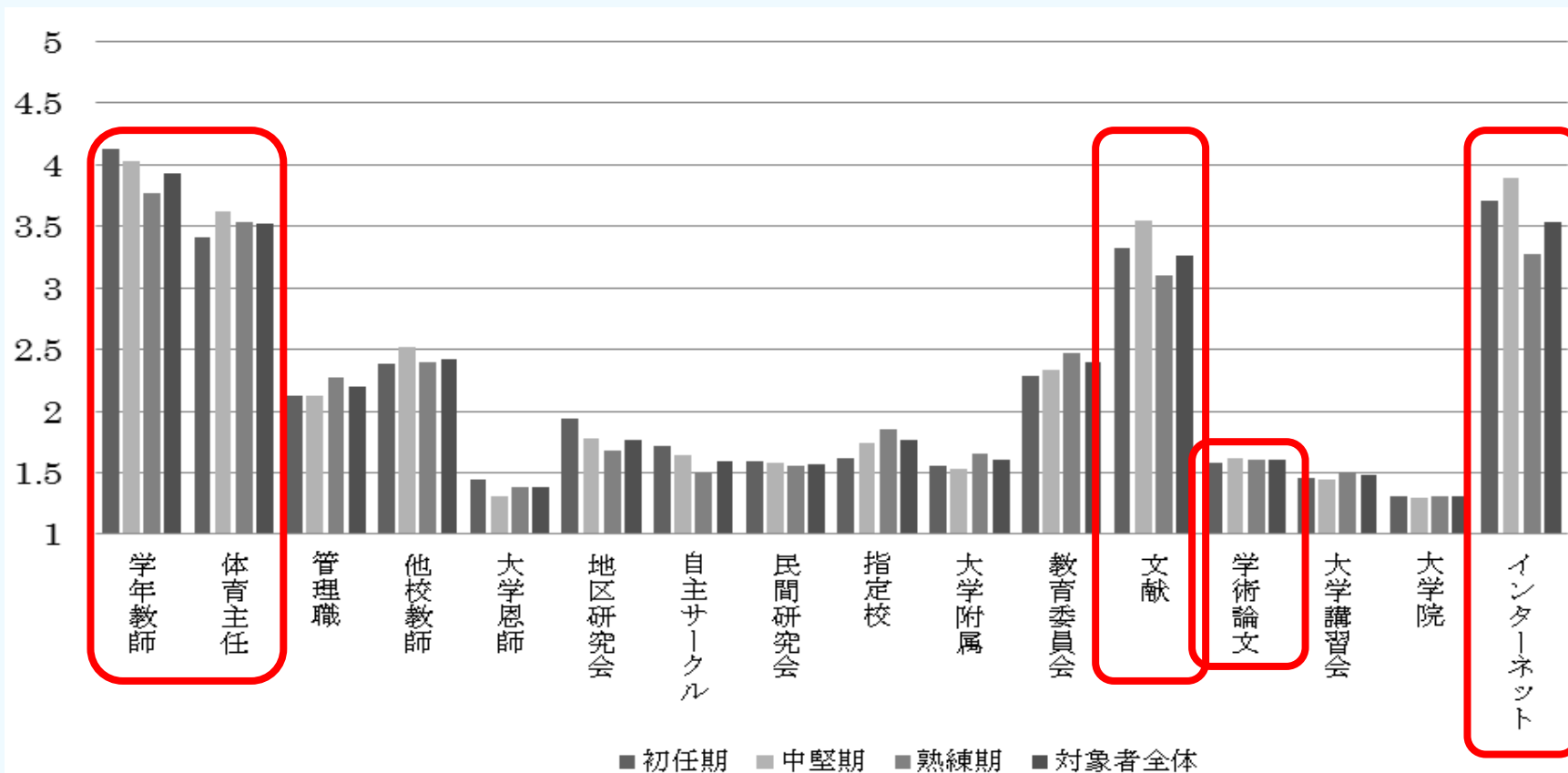
平成28年度 学校教員統計調査(幼小中校教員学歴構成)

エビデンス活用のやる気(Motivation)

- S大学教職大学院の場合における、専門職学位を取得することで得られる経済的な便益を「N県学校職員の給与に関する条例」と関連する細則等をもとに分析。
- 教職におけるキャリアモデルを4つ設定し、短期大学卒業者、学部卒業者、大学院修了者の生涯獲得賃金を比較。
- 給与計算は基本給を基礎に、基本給に連動する教職調整額、義務教育等教員特別手当、地域手当、期末手当、勤勉手当を合計したもので計算。

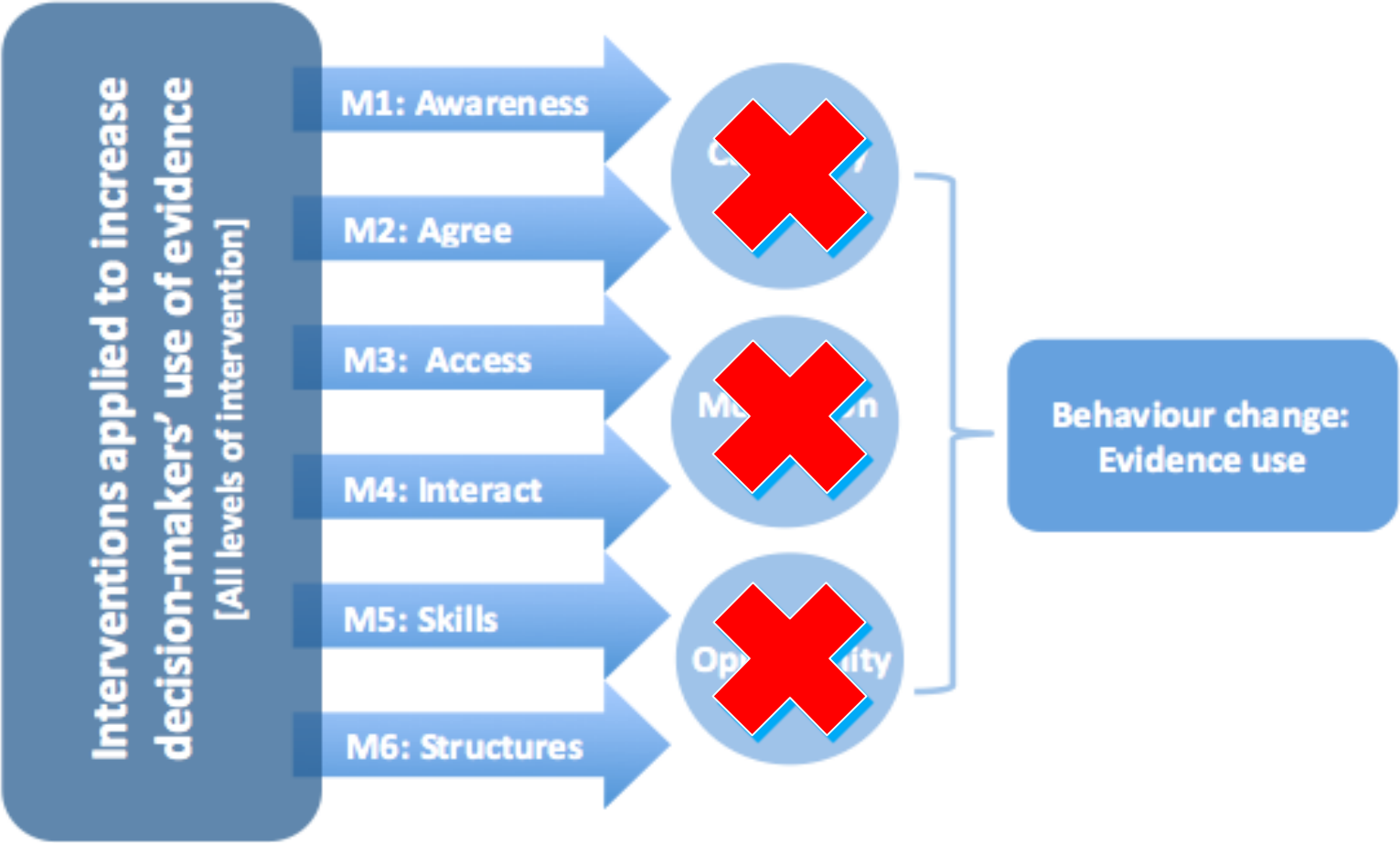
⇒ 教諭として教職のキャリアを全うする場合も、教頭になって終える場合も、校長として教職を終える場合にも、**大学院を出てから教職に就くと生涯獲得賃金が減り、経済的に不利益を受ける。**

エビデンスを活用する機会(Opportunitiy)



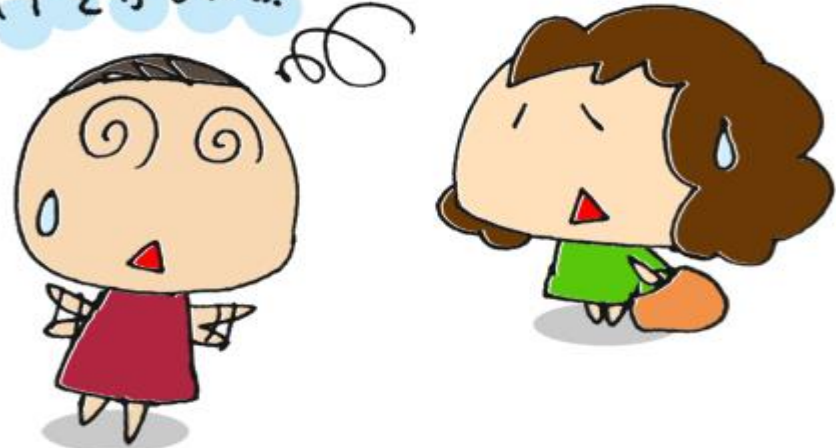
体育授業で困っていることの解決方法（加登本ほか、2012）

日本の現状は・・・



現場とエビデンス

いそがしい
いそがしい...



「エビデンスを使いたい」

- 日本に質の高いエビデンスが少ない。
- 海外のエビデンス提供機関のサイトが複数存在する。



エビデンスを探すことが困難

教育エビデンス検索サイト(仮名:エビ探)

エビデンスを手軽に検索することのできる日本語のサイト

The screenshot shows the homepage of the 'Education Evidence-based education' search site. The header is dark with white text for the site name and navigation links. The main search area is dark with white input fields and buttons. The search results area is white with a large heading and a message indicating no results for the current query. A secondary search box for mobile sites is also visible.

Education Evidence-based education

ホーム 記事一覧 特集 サービスについて 有料プラン

宿題 and 学術分野から選ぶ or 検索 提携先のサイトを検索

🏠 > 検索結果

検索結果

登録されている記事はございません。

提携サイトから検索

🔍

教育エビデンス検索サイトの使い方 (仮名:エビ探)

↵

Q

文を読む力(読解力)を高めるにはどうすればいいですか？

↵

A

「文章を要約すること、重要なキーワードをあげること、図でまとめること、何が分かって、何が分からなかったかを自分自身で振り返ること、仲間同士で質問しあったりすること」が有効。

↵

引用文献・研究デザイン

【ランダム化比較試験の要約】 2016年3月発表

https://educationendowmentfoundation.org.uk/public/files/Toolkit/Technical_Appendix/EEF_Reading_comprehension_Toolkit_Technical_Appendix.pdf

研究デザイン:メタアナリシス

原著論文 アウトカムが明確か (アウトカムは4つまで許容)

ランダム化されているか ITT 解析か

マスキング: なし 一重 二重 PROBE

追跡率: 追跡期間: 中央値 30年

↵

SICO・結果

S どんな人に？

読むことに困難を抱えた8~18歳の人

I どんな方法を？

読みに関する指導法全般

C 何と比較して？

何も指導しない場合

O どんな項目で効果を検討？

過去30年にわたる読むことに関する研究と7つのメタアナリシス(うち5つは10年以内にまとめられたもの)の効果量を比較

↵

結果


読解力に関する指導について、効果量が0.10から0.52の幅があった。

読解力を高める教員研修は、教師一人あたり1200€、生徒一人あたり48€である。

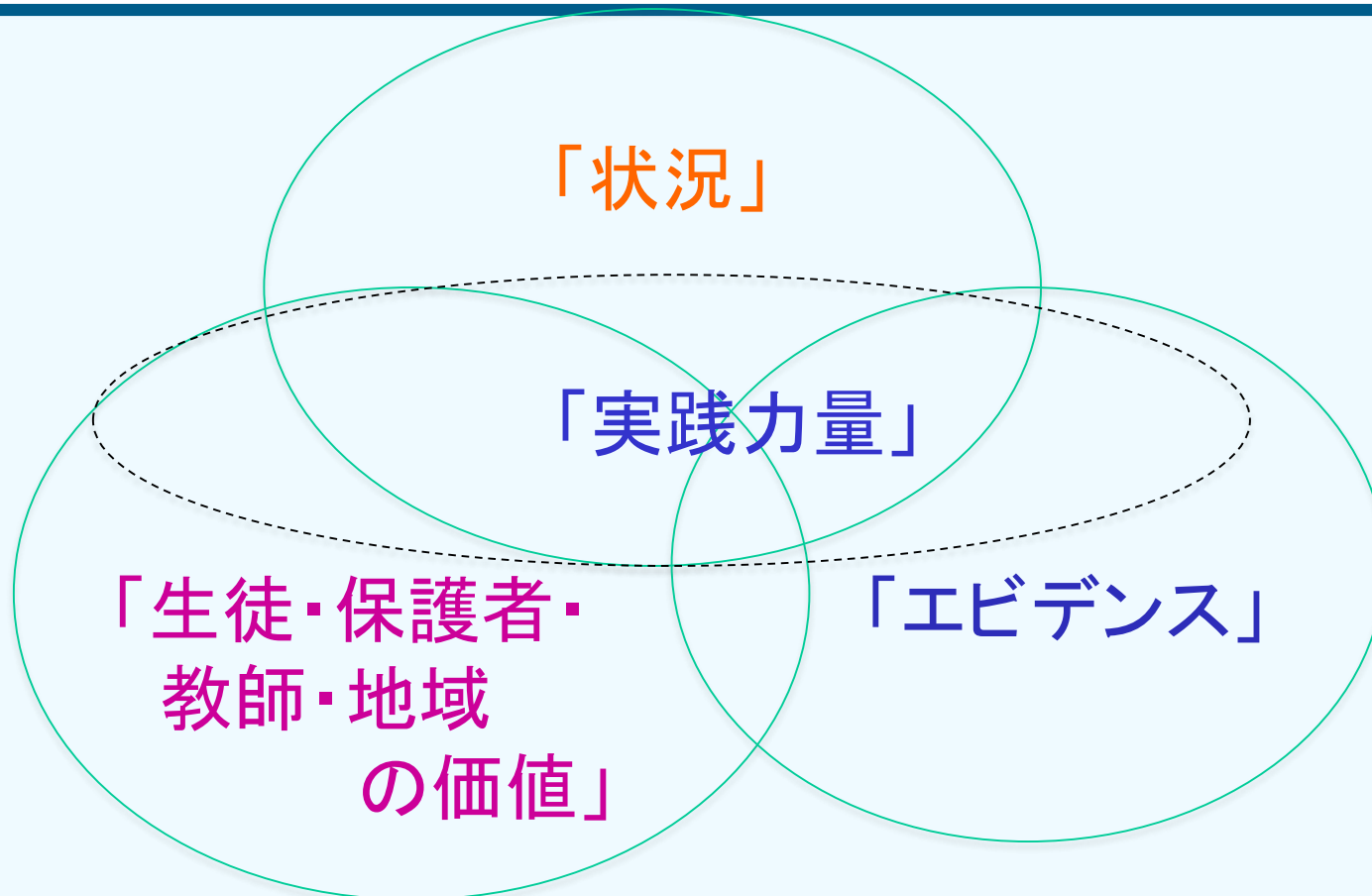
Step2 情報収集

情報源の種類と特徴

情報の種類	労力	関連性	妥当性
経験、直感	小	大	小
児童の実態	小	大	小
他の教師の意見	小	大	中
教科書、専門書	中	中	中
実践報告 (雑誌、ネット)	中	中	中
実践報告 (指導案)	小	中	小
原著論文	大	小～中？	大

名郷(1999)を一部改変 

4つのフレームワーク



Haynes RB, Devereaux PJ, Guyatt GH. Clinical expertise in the era of evidence-based medicine and patient choice. *EBM* 2002;7:36-8.を一部改変

エビデンスリテラシーの育成(教員研修)

- EBEに関する校内研究
- エビデンスに基づく授業研究
- 研究推進だより
(SICOや4つのフレームワーク等)

現場の問題を エビデンスから現場言葉で伝える

- 具体で示す。
- 一緒につくる。
- 問題に関するエビデンスを紹介する。

- 「すっきりしました。」
- 「エビデンスは調味料。」
- 「やってみてまた考えてみよう。」
- 「よけい分からなくなった。」

それでも「つかう」困難な理由

「エビデンスなんてなんで必要なの??」

- ・問いのない実践

(これでいいと思っている等)

- ・エビデンスを利用する必要性のない環境